



群馬県コンクール 金賞

お米をたくさん食べよう フードマイレージを学んで思ったこと

太田市立尾島小学校 6年 笠原 実紗

今年も各地で豪雨や猛暑など温暖化が原因と思われる気象現象のニュースを良く目にします。地球温暖化はどんどん進んでおり、なんとかしてくい止めなければいけないと思いました。

私はこの夏、食料自給率や、日本の食生活の変化、現在の日本の農業の状況、フードマイレージと地産地消について学びました。現在、日本人の食生活が変わり、和食から洋食を食べる人が増えたため、お米の消費量が減り、生産量も減っています。生産量が少ないため収入も減ってしまい、農業をやめてしまう人が多くなり、また、若い人で農業につく人が少なくなっているそうです。以前、「お米が食べられなくなる日が来るかも。」という言葉聞いたことがありました。初めは「そんな事はない」と信じていませんでしたが、この夏学んだことにより、この言葉は私の中で現実的になっていきました。

学んだ事の中で一番印象に残ったのが「フードマイレージ」です。フードマイレージとは、直訳すると「食料の輸送距離」で、食料の生産地から消費者の食卓に並ぶまでの輸送にかかった「重さ×距離」で表される。フードマイレージの大きい食料、つまり遠く離れた場所から届く食料は輸送や輸送までの保管などに石油などのエネルギーが多く使われていて、多くの二酸化炭素を出してしまいます。私自身の食事や友達が話していた食事内容を思い返してみると、朝食にパンを食べたり、昼食にファストフードを利用したりと小麦から作られている食品を食べている事が多いと感じました。小麦は九〇パーセント以上を輸入にたよっており、フードマイレージが大きい食料です。つまり、小麦から出来た食品を多くとることは二酸化炭素を多く排出し地球温暖化を進めてしまう事につながります。これを知り、私は毎日の食事を改善してみようと思いました。地元産や近くの県でとれたお米を食べる事や米粉で作ったパンを食べる、米から作った油を使用するなど考えてみるといろいろと改善できると気がつきました。こうすることで、フードマイレージは小さくでき、温暖化の防止につながります。また、米の消費量アップや、食料自給率のアップにもなりよいと思いました。

私の住んでいる地域は、周りに田畑がありのどかな風景が広がっています。夏頃は水田に青々とした稲がはえ、その間をあいがもが泳ぐあいがも農法が見られます。一生懸命に稲の間を動き回るかもの姿はとてもかわいらしいです。日本の米の生産が増え、温暖化の進行を防ぐことにつながりこののどかな風景が今後も見られるよう、自分それからみなさんも米をもっとたくさん食べるようにしてください。